



# 青武台だより

## No.207

平成27年12月15日発行

### 目次



	ページ
1. はじめに	2
2. 活躍する仲間	
第50回全国高等専門学校体育大会に参加して	4~5
第50回全国高等専門学校体育大会成績	6
平成27年度全国高等学校総合体育大会少林寺拳法競技大会 兼	
第42回全国高等学校少林寺拳法大会に参加して	7
平成27年度全国高等学校総合体育大会少林寺拳法競技大会 兼	
第42回全国高等学校少林寺拳法大会成績	7
平成27年度全国高等学校総合体育大会卓球競技大会 兼	
第42回全国高等学校卓球大会に参加して	7
平成27年度全国高等学校総合体育大会卓球競技大会 兼	
第42回全国高等学校卓球大会成績	7
アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2015	
東海・北陸地区大会に参加して	8
全国高等専門学校 第26回プログラミングコンテストに参加して	9
第9回歯みかきロボットコンテストに参加して	9
第11回全日本学生室内飛行ロボットコンテストに参加して	10
第8回関数グラフアートカンファレンスに参加して	10
平成27年度福井県高等専門学校将棋大会成績	11
第39回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権全国大会成績	11
第28回全国高等学校将棋竜王戦福井県大会成績	11
第39回全国高等学校総合文化祭将棋部門 兼	
第51回全国高等学校将棋選手権大会(滋賀大会)に参加して	11
第39回全国高等学校総合文化祭将棋部門 兼	
第51回全国高等学校将棋選手権大会(滋賀大会)成績	11
第39回全国高等学校総合文化祭	
吟詠剣詩舞部門(滋賀大会)に参加して	12
第28回全国高等学校将棋竜王戦(福岡)に参加して	12
第28回全国高等学校将棋竜王戦(福岡)成績	13
第22回全国高等学校専門学校将棋大会に参加して	13
第22回全国高等学校専門学校将棋大会成績	13
第47回福井県吹奏楽コンクール 兼	
第63回全日本吹奏楽コンクール福井県予選に参加して	14
保育ボランティアを経験して	14
第51回高専祭	15
球技大会	16
弁論大会	16
クリーン大作戦	17
被災体験	17
高専祭写真集	18~19
平成27年度教育後援会研究奨励一覧	20
平成26年度教育後援会奨励研究概要報告	20~22
平成27年度 キャンパスプロジェクト採択一覧	23
平成26年度 キャンパスプロジェクト概要報告	23~24
3. 学生の将来と進路	
進路決定について	25
平成27年度進路内定状況	25
大学編入学試験体験記	26
就職試験体験記	26
インターンシップ体験記(本科)	27
インターンシップ体験記(専攻科)	28
海外インターンシップを体験して(専攻科)タイ	29
専攻科生による校外発表会(北陸技術交流テクノフェア)	29
4. 中学生の皆さんへ	
キャンパスツアー2015及び	
キャンパスリサーチ2015の実施について	30
中学校だより	31
5. 学園通信	
救急救命講習会・実技講習会について	31
オープンラボの実施について	32
女子中学生と保護者のための	
体験学習&懇談会の実施について	32~33
平成27年度防災訓練の実施について	33
平成27年度学寮防災訓練の実施について	34
本校に着任して	35

独立行政法人国立高等専門学校機構  
福井工業高等専門学校

National Institute of Technology, Fukui College

## はじめに

## 福井高専創立50周年に寄せて 一次の50年後のために

企画室長 田中 嘉津彦

既に本校ホームページや小誌青武台だより No.206 などでお知らせしているように、昭和 40 年に創立された本校は今年 50 周年という節目の年を迎えました。これもひとえに、7千余名の本校からの卒業生・修了生が県内外の産業界を始めとする各界で華々しく活躍、そして貢献されていることに加えて、教育後援会や地域の方々からの温かいご支援とご協力の賜物であり、感謝の念に絶えません。

本校の創立 50 周年記念ロゴマークには“STEP UP to the NEXT STAGE”という言葉があります。まさに今年は、本校関係者一同、半世紀にわたる本校の歴史と伝統を顧みると同時に建学の精神を再確認し、来る新しい時代に向けて本校がなすべきことを展望するには格好の機会です。このような趣旨で創立 50 周年事業として、記念式典、記念コンサート、記念講演会、五十周年誌の刊行、そして記念募金などが企画されました。またこれらにあわせて、初代校長 内藤敏夫先生がご退官される際に残された記念歌碑を、図書館前から正門横に移設しました。同歌碑には「おのがじし 拓かむ途のさきくあれ くにのゆくすゑ 負ひて立つ子ら」と、先生の学生教育に臨む心が詠われており、本校の建学の精神ともいえるものです。本校学生のみならず関係者一同、毎朝正門をくぐるたびにこの歌碑を目にすることで、原点に立ち返り、教育に、また学習に励みたいという想いです（内藤先生の歌は、五十周年記念事業の一環で製作されたクリア・ホルダーの表紙を飾っています）。

さて、去る 11 月 6 日（金）に福井県立音楽堂 ハーモニーホールふくいにて記念式典と記念コンサートを、また 11 月 19 日（木）には鯖江市文化センターにて記念講演会を開催しました。

記念式典は、文部科学省を始め、福井県、鯖江市、越前市、県内外の大学や企業、そして多くの関係機関の皆様のご臨席の下、厳粛且つ盛大に挙行されました。式辞として松田校長より本校の歴史を顧みつつ、今後の展望と決意として「得意とする専門分野を持ちながら、関連分野の知識を活用・統合できる柔軟で総合力のある実践技術者、且つ国際的に活躍できる人材の育成」と、「持続可能な社会を構築して行く原動力としての役割」が述べられました。その後、

文部科学大臣、福井県知事、越前市長、そして鯖江市市長より祝辞を頂戴し、国立高等専門学校機構 小畑理事長より地域や関係機関の方々への謝辞があり、厳かに式典は終了しました。

記念式典終了後、引き続いて京都フィルハーモニー室内合奏団とソプラノ歌手 奈良絵里加氏による記念コンサートを開催しました。コンサートは奈良氏の軽妙な語り口調での司会により進行し、アイネ・クライン・ナハト・ムジーク（モーツァルト作曲）、美しく青きドナウ（シュトラウス 2 世作曲）を始めとするクラシック曲を含む合計 11 曲が重厚且つ荘厳な調べにより演奏されました。特に、美しく青きドナウは、毎年元旦に開催されるウィーン・フィルハーモニー管弦楽団によるニューイヤーコンサートにおける定番曲でもあり、本校の新しい門出を祝し、象徴する選曲であったと思います。

また、記念講演会には宇宙航空研究開発機構 (JAXA) の川口淳一郎先生をお招きし、「やれる理由こそが着想を生む」との演題でご講演頂きました。人間的にも非常に気さくな川口先生は、苦難の末、7 年間に及ぶ宇宙の旅を無事に成功裡に導いた小惑星探査機「はやぶさ」のプロジェクトマネージャーを務められておられました。当日のご講演ではジョークとユーモアを交えながら学生に向かって、自分自身を信じること、加点法の重要性、そして飽くなき挑戦などの、エンジニアとしての数々の金言をご自身の経験と哲学に基づき分かりやすく語っておられました。ご講演は“やれる理由を見つけ挑戦しない限り、成果は得られない”との言葉で締めくくられ、学生は感慨深く聞き入っていました。先生のご講演後には会場より質問も積極的になされ、その回答も

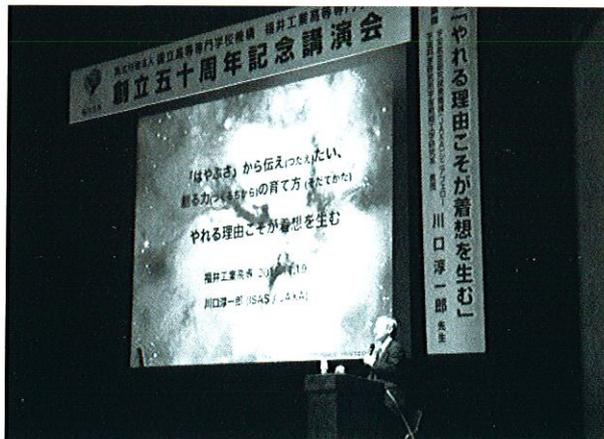


記念コンサート

エンジニアを目指す学生にとっては大いに参考になったのではないかと考えます。

なお、記念募金においては多くの皆様や企業などからご厚意を頂戴しました。現在、お寄せいただいた貴重なご芳志から高度人材育成基金と環境整備基金を設立し、今後の50年を見据えた教育研究活動の整備と充実に資するべく準備をしているところです。

創立50周年記念事業を実施するのに当りましては、多くの方々から暖かいご支援とご協力を賜りますとともに、引き続き、教育研究機関としての本校のさらなる発展に向けてご指導・ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。



記念講演会

## 福井高専へのメッセージ@50周年記念祝賀会

### (教職員 OBOG)

- ・私の宝物、そしてお世話になりました。懐かしい方々にお会いできて幸せな一日でした。(渡辺康二)
- ・次の50年に向けて一層の飛躍を期待しています。校長をしていた時老朽化した校舎に苦労しましたが、一新されて感無量です。(駒井謙治郎)
- ・次の五十年に期待します。(荻野繁春)

### (卒業生)

- ・イノベーション、グローバル化は、日本の企業にとって重要且つ最大の課題です。イノベーション、グローバル化を強く意識した人材育成を進めて頂きたいと思います。※30年ぶりに校歌を聞きました。本当に懐かしく、又学生時代の思い出がうかんできました。(山崎和一)
- ・創立50周年おめでとうございます。信越化学には、現在100名以上の福井高専OBが勤務しており(1回生～45回生まで)、信和会という福井高専OB会を組織しており、新人歓迎会や懇親会を通して部門外の交流をはかり、時には先輩にアドバイスを求めたり、激励されたり、仕事に役立てています。在校生の皆様、信越化学で、いっしょに楽しく働きましょう。まっています。(信越化学福井高専OB会(信和会):木村昌司郎)

### (その他)

- ・本日はおめでとうございます。19年前に初めて貴校の卒業生にご入社いただきました。その

- 後多くの卒業生にご入社いただいております。19年前の一人の卒業生が弊社の品質・技術の向上に大きく寄与していることは間違いありません。本当に感謝しています。貴校の益々の発展を心より祈念しております。(清川メッキ工業株式会社:清川忠幸)
- ・福井高専卒業生が6名在籍している前田道路株式会社です。H27入社のM君は元気、やる気、前向きさがあり、将来のエース候補です。先生方によりしくお伝えくださるとのことです。(10月末研修で一緒だった際、本人から伝言を頼まれました。)施工管理に興味のある学生をお待ちしております。よろしくお申し込み申し上げます。(前田道路株式会社:人事部:横堀孝広)
- ・入社後、社会人としての自覚が他校生とひとあじ違う様に思います。校風なのでしょう。次の学生も期待しています。(株式会社ほくつう:宮川)
- ・創立50周年おめでとうございます。福井のものづくりが発展するためには若い人たちの自由な発想やパワーが大切だと思います。高専でしっかり学んで福井のものづくりを未来につなげて下さい。(吉岡正盛)
- ・卒業生の方は本当に真面目で助かっています。素晴らしい校風を今後も大事にして下さい。(酒井清章)

### (保護者)

- ・50周年おめでとうございます。さらなる発展をお祈りします。

## 活躍する仲間

## 第50回 全国高等専門学校体育大会に参加して

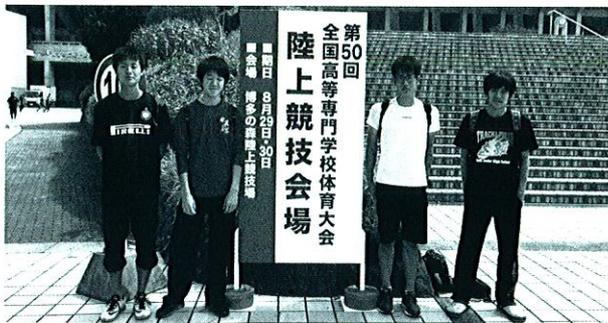
## 第50回全国高専体育大会(陸上競技)に参加して

陸上部 3E 日向 航

陸上の北陸地区の高専大会は7月4日に石川にて行われました。第50回目という記念すべき大会であったため1位、2位は全国に出場することができましたが、1位を取るつもりで大会に臨みました。しかし結果は2位で全国には出場ができたものの、全体的に課題の残る試合となりました。

全国は8月の29日、30日に博多で行われました。初めての全国大会だったので練習している際、多少の緊張や不安はあったが、とくにこれといった支障は感じませんでした。

レースが始まり、序盤は周りに流されず自分のペースで走っていたが、その日は雨が降ってジメジメしており、風も強かったため想像以上に体力の減りが早く、結果的に成績は最悪なものとなりました。今回、多くの方が応援や練習のサポートをしてくれたので、その人たちに少しでも恩返しができるよう、これからも頑張りたいと思います。



## 全国高専大会を終えて

卓球部 4E 山下 翔

男子卓球部が団体で全国大会出場を決めたのは5年振りのことだった。毎年石川高専に負けて悔しい思いをしているので、感動すら覚え、全国大会への期待も膨らむものだった。

全国大会までの二ヶ月間に来る限りの準備をして、私達はその日を迎えることになった。

全国大会に行くのは全部員が初めての事で、団体で出場することは全員初めての事だった。

よく名前を聞く常連校のレベルの高い練習をしている様子を見ることによって、改めて全国大会に来たんだという実感を持った。

結果としては、競った試合や内容の良い試合をするものも、チームとしては相手との差を痛感する結果となった。そんな中で、リーグ戦で団体として一勝できたことはとても嬉しかった。

今回、全国大会に出て、全国大会の雰囲気、相手チームとの差を実感できたのはとても良い経験になった。今年、悔しさをバネに地区で優勝した様に、来年は全国での悔しさをバネにして、もっと質の高い練習を積み重ねて来年の全国高専大会上位進出を目指していきたい。



## 全国高専大会に出場して

テニス部 4B 竜田 晃樹

テニス競技の第50回全国高専大会は8月19～21日、パークドーム熊本にて開催されました。北陸地区大会の団体・ダブルス2種目の優勝で全国への切符を手に入れました。出発前の目標「団体ベスト4」が大会本番では「石川高専と決勝で！」に変わっていました。1回戦は団体2連覇中の徳山高専、2回戦・準決勝はそれぞれトーナメントを勝ち上がってきた木更津高専・大分高専といずれも手強く、苦戦しましたが、サポート部隊の協力と応援の支えて選手が各自の役割を確実に果たし、目標どおり決勝戦に駒を進めることができました。

決勝戦は予想通り石川高専でした。北陸勢が全国の決勝で顔を合わせるのは昭和55年以来で、お互い「絶対優勝したい！」という気迫のぶつかり合う熱い試合でした。シングルス2試合、ダブルス1試合が同時進行でスタートし、全試合で1セットを落とした以外はセットを落とさず接戦を制し、優勝しました。部員が少なく辛かった時期もありましたが、あきらめずに練習を積み重ねて来ただけに優勝の喜びは大きかったです。

す。団体戦の後の個人戦ダブルスには森田裕貴(4C)・山崎一真(3M)ペアが出場しましたが、故障のアクシデントもあって優勝ペアに敗れ、ベスト4止まりで残念でした。

来年の目標に「団体2連覇」と「ダブルス優勝」の2つを掲げ、練習を再開しています。再び地区大会そして全国大会へと関門を一つ一つクリアして行かなければなりません。頑張りますので応援よろしくお願いします。



## 高専大会を終えて

剣道部 F4 佐々木 まどか

私は初めて、全国高専大会に出場しました。高専の大会自体初めてだったので、他の選手がどのくらいの力なのかなども、どのようにすればいいのかもよくわからない状態で、とても不安でした。

会場に入り他の選手の練習を見ていると、みんな気迫が出ていたり強かったり、試合が近づくにつれて緊張と不安がおそってきました。大きな大会で強い相手ということから、最初から自分の力を出せず相手に攻められ、あまりいいところをださずに終わってしまいました。団体戦でも、流れを作って後ろにまわすことができずに終わってしまいました。個人戦でも団体戦でも自分の力を出しきれずに終わってしまったのがとてもやしいです。

高専大会を終えて、自分の力の無さを改めて実感することができました。練習の時からあまりできていないことを本番では絶対に出せないと思うので、これからの一回一回の練習をもっと大事にして、やること一つ一つの意味をしっかりと理解して、意味のある練習をしていきたいです。

全国の大会に出ることなんて、たくさん経験できることではないと思うので、今回の試合で学んだことを、感じたことを忘れずにこれからの練習に活かしていきたいです。

たくさんの方が支えてくれたおかげでこのような経験をすることができたので、支えてくれた人たちへの

感謝の気持ちを忘れないようにしたいです。



## 全国高専大会に出場して

水泳部 4B 宮本 紗樹

8月30日、第50回全国高専体育大会が鹿児島で行われました。この大会に、私は200mフリーリレーの第1泳者として出場しました。これは、私にとって初めての全国大会であり、最高に嬉しくて最高に楽しい経験となりました。

私が水泳部に入部してすぐの頃、水泳部に経験者はほぼゼロの状態でした。練習メニューは本や雑誌で調べ、フォームは初心者同士で教え合いをしていました。当時、全国大会に出場できたのは1人の経験者だけでした。そんな水泳部が、今では部員数はどの部活よりも多くなり、経験者も以前には考えられないほど集まり活動しています。練習メニューも変わり、フォームの指導もできるようになりました。そして今年、全国大会に11名ものメンバーが出場できました。

全国大会は、前泊と後泊で合わせて3日間かけて行きました。私と同学年のメンバーはおらず、10人の後輩達と一宿に3日間を住ごしました。水泳は個人競技なので、リレー以外で協力し合って頑張れる種目はありません。その分、個人種目の時は同じチームのメンバーの応援を頑張ります。今回は学年がバラバラなメンバーでしたが、皆が和気あいあいとして楽しかったです。

結果は、総合得点で6位、200m平泳ぎでF1佐々木くんが3位、私が出場した200mフリーリレーでは4位となりました。悔しい部分もあったかもしれませんが、全国大会という大きな舞台上、全員が精一杯頑張ることができたと思います。私が今回、このような経験ができたのは、多くの方々の支えと応援のお陰です。指導して下さった先生方、水泳部を前進させて下さった先輩方、一緒に頑張った水泳部の皆、応援の声をかけてくれた友達、今までずっと支えてくれた家族に、本当に感謝しています。

## 活躍する仲間

## 第50回 全国高等専門学校体育大会成績

◎陸上競技 (平成27年8月29日・30日)  
東平尾公園博多の森陸上競技場

【男子5000m】

日向 航(3E) (記録) 18分10秒89 (28位)

【三段跳】

田中 優貴(3B) (記録) 12m 49cm (16位)

【走幅跳】

田中 優貴(3B) (記録) 6m 29cm (12位)

◎剣道 (平成27年8月22日・23日)  
合志市総合センターヴィーブル総合体育館

【女子団体の部】

1回戦 福井高専 1/2-2/2 有明高専  
(1回戦敗退)

【女子個人の部】

佐々木まどか(F4) 0-1 深堀ひより  
(1回戦敗退) (佐世保高専)

◎柔道 (平成27年8月22日・23日)  
KIRISHIMAツブキ武道館(主道場)

【女子個人の部】

63Kg超級 稲葉 棕子(2E) 2-8 傍嶋美月  
(1回戦敗退) (岐阜高専)

◎水泳 (平成27年8月30日)  
鹿児島市鴨池公園水泳プール

【男子50m自由形】

三村 歩(F2) (記録) 27秒07 (19位)

【男子400m自由形】

立壁 涼虎(2B) (記録) 4分20秒81 (4位)

【男子800m自由形】

立壁 涼虎(2B) (記録) 9分07秒70 (7位)

【男子100m平泳ぎ】

佐々木祐輝(F1) (記録) 1分09秒44 (5位)

【男子200m平泳ぎ】

佐々木祐輝(F1) (記録) 2分29秒91 (3位)

【男子200m背泳ぎ】

定兼 拓永(F4) (記録) 2分22秒26 (6位)

【男子200m個人メドレー】

定兼 拓永(F4) (記録) 2分24秒94 (12位)

【男子400mメドレーリレー】

定兼 拓永(F4) 佐々木祐輝(F1)  
又農 智史(3E) 立壁 涼虎(2B)  
(記録) 4分19秒75 (6位)

【女子100m自由形】

八田 朱里(3C) (記録) 1分05秒04 (7位)

【女子200mリレー】

宮本 紗樹(4B) 小林 椿(2M)

袁輪 奈穂(F3) 八田 朱里(3C)  
(記録) 2分05秒23 (4位)

◎卓球 (平成27年8月22日・23日)  
那覇市民体育館

【男子団体】

〈予選ブロック〉

福井高専 0-3 香川高専  
福井高専 0-3 有明高専  
福井高専 3-1 一関高専  
(予選ブロック3位 敗退)



【女子団体】

〈地区対抗団体戦トーナメント〉

東海北陸地区(岐阜高専・福井高専) 3-0 北海道・開催校  
東海北陸地区(岐阜高専・福井高専) 1-3 東北地区  
(3位)

【女子ダブルスの部】

〈予選ブロック〉

福井高専(藤田(4B)・鈴木(3C)) 3-0 高知高専  
福井高専(〃) 3-0 都城高専  
福井高専(〃) 3-0 苫小牧高専

〈決勝トーナメント〉

福井高専(藤田(4B)・鈴木(3C)) 3-1 福島高専  
決勝  
福井高専(藤田(4B)・鈴木(3C)) 2-3 福島高専  
(準優勝)

【女子シングルの部】

〈予選ブロック〉

福井高専(鈴木 優(3C)) 3-0 明石高専  
福井高専(鈴木 優(3C)) 3-0 有明高専

〈決勝トーナメント〉

福井高専(鈴木 優(3C)) 3-0 米子高専  
決勝  
福井高専(鈴木 優(3C)) 3-0 福嶋高専  
(優勝)

◎テニス (平成27年8月19日～21日)  
熊本県民総合運動公園パークドーム熊本

【男子団体】

決勝  
福井高専 2-0 石川高専 (優勝)

【男子ダブルス】

準決勝  
福井高専(森田(4C)・山崎(3M)) 4-8 茨城高専  
(3位)

活躍する仲間

平成27年度全国高等学校総合体育大会  
 少林寺拳法競技大会兼第42回全国高等学校  
 少林寺拳法大会に参加して

インターハイに出場して

少林寺拳法部 3C 佐久見 雄 大

7月31日から3日間、兵庫県でインターハイが開かれた。そこに私たちの部活から、男子組演武の部と女子単独演武の部に1組ずつ出場した。私は男子組演武の部に出場するにあたって素早い突き蹴りよりも、正確な動きをすることを心掛けた。

速いのは確かに格好いいが、それは腰がはいってこそだ。そう判断した私たちは、少林寺拳法の基本であり、すべての技の精度を左右する体捌きの稽古を中心にした。怪我や時間不足等、障害もいくつかあったが、密度のある稽古をして、できる限りのことはしたつもりだ。

そして迎えた本番、男子組演武の方は、自由演武と規定演武を2日に分けて行った。他校の人の自由演武は、観ていてとても迫力がある構成で魅入ってしまい、規定演武では、同じ構成なのにここまで違うかと感心させられた。

自分も選手であるということをおぼえてしまいそうだった。やはり全国のレベルは高く、速さも正確さも、さらに迫力も最大限出すために相当な時間をかけて練り上げてきたことが見て取れた。そういう妥協しない精神が彼らをこの大会に出場させたのだろう。

武道は心身共に鍛えるものである。全国に出場するような人は皆一様に礼儀、思いやりがあり、眩しく感じた。予選敗退で終わった私たちも、技術はまだまでも、礼儀などはしっかりしていたと思われていたと思う。インターハイ出場選手として、恥じることはないように。



大会成績

◎少林寺拳法競技大会(平成27年7月31日～8月2日)  
 兵庫県立武道館

【女子単独演武の部】

小島亜素佳(2B) 248点

【男子組演武の部】

佐久見雄大(3C)、内海安久璃(3E) 474点

平成27年度全国高等学校総合体育大会  
 卓球競技大会兼第42回全国高等学校  
 卓球大会に参加して

インターハイを終えて

卓球部 3C 鈴木 優

私は今回、初めてのインターハイでした。インターハイに出場することは一年生からの最大の目標でした。インターハイに出場するには高校総体の県予選で3位に入賞しなければなりません。1・2年の時の県予選でベスト8で惜しくも負けてしまい悔しかったのを今でも覚えています。

私にとって初めてのインターハイは今まで出場した大会と異なり、雰囲気にも慣れず、2日目になると会場の雰囲気にも慣れて、2回戦の相手は明德義塾の井さんと対戦し3・1で勝ち、3回戦に進むことができました。3回戦では明豊の木原さんと対戦し、0-3で負けてしまいました。試合のあと、もっと自分から攻めていけばよかったと後悔しました。

全国大会を終え、もっと自分の苦手なところを中心に練習しないといけないと感じました。技の種類が少ないこと、攻めが弱いことなど、改善しないといけないところがわかってよかったです。また、強い選手は卓球の技術だけでなく、生活や行動の面においてもしっかりとしていました。私も日頃の生活から見直していこうと思います。これからもいろんな全国大会に出場し、活躍できるように、日々の練習に励んでいきたいです。

私は、先生、部活の仲間、家族、いろんな人たちのおかげでインターハイに行くことができました。支えてくれた全ての人たちへの感謝を忘れないようにしたいです。



大会成績

◎卓球競技大会 (平成27年8月10日～8月14日)  
 滋賀県立体育館

【卓球部女子シングルス】

1回戦

福井高専(鈴木 優(3C)) 3-1 秋田県秋田商業高校

2回戦

福井高専(鈴木 優(3C)) 3-1 高知県明德義塾高校

3回戦

福井高専(鈴木 優(3C)) 0-3 大分県明豊高校

## 活躍する仲間

## アイデア賞・全国高等専門学校ロボットコンテスト2015東海・北陸地区大会に参加ス

## ついに・・・

4M 林田 剛 一

平成27年10月4日、ロボットコンテスト東海北陸地区大会が行われました。

私達Aチームは「Mr.イカフライ」というロボットを製作し、出場しました。輪投げがテーマだったので、イカリングと輪を飛ばすということを使ったロボット名です。自陣ポールに小さな輪を横から当てて入れる機構と、輪を前方にスピンさせながら中央、相手ポールを狙う機構を搭載しました。

大会では、これら二つの機構が練習どおり動き、順調に勝ち上がることが出来ました。準決勝で優勝チームに敗れましたが、輪をスピンさせながら入れる点を評価され、アイデア賞を取ることができました。また、自身初、福井高専としても5年ぶりとなる全国大会出場権を獲得することが出来ました。

大会直後はふわふわとした感覚でしたが、色々な方に激励され、最近ようやく実感が沸いてきました。全国大会出場という結果を得られたのも、チームメンバーを初めとした部員全員、その他関係者の方々のおかげだと思っています。ありがとうございます。

「国技館を沸かすロボットを作る」と春先に言いました。国技館という条件はクリアしました。全国大会出場だけで満足せず、あと1ヶ月と少し、しっかりとロボットを改良し、国技館で自分達のパフォーマンスをやりきりたいと思います。応援よろしくお願いします！



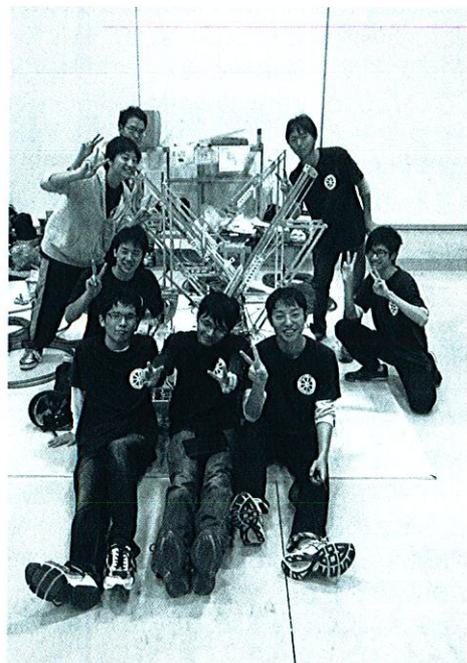
## 高専ロボコンという大舞台

4M 山崎 港 大

10月4日にあった高専ロボコン東海北陸地区大会。競技は輪投げだ。私は過去三回参加しているが、操縦者として、Bチームリーダーとして出場するのは初めてだったが、不安や心配はなく、いつもと変わらない気持ちで大会に向かった。

会場に入るとロボットを梱包台からおろして調整に入った。学校での練習環境と会場の環境は全然違う。私は目の前の自分たちのロボットを動かすことに集中した。

そして大会が始まった。大事な初戦は緊張したが、試合が始まると操縦することに集中したので緊張など忘れた。一回戦、二回戦と順調に勝つについに決勝まで勝ち進んだ。過去三回の出場で最高一回戦突破だったので、決勝という大きなステージに立つことがなかったが、もう緊張はせず、ベストを尽くそうという気持ちで決勝に挑んだ。結果負けてしまったが、それでも準優勝という大きな結果を残せて、とても嬉しい。



## 全国高等専門学校 第26回プログラミングコンテストに参加ス

### 168時間で戦えますか？

5E1 廣島 健亮

168時間と聞いてピンと来ない人もいるであろう。まあ、一週間である。

一週間で何ができるだろうか。参考書の二冊や三冊を読破したり、簡単な楽譜一譜程度を覚えることならできよう。ひょっとしたら、それなりのゲーム一本を仕上げることもできるかもしれない。

高専生なら『プロコン』という単語を一度は耳にしたことがあると思う。『ロボコン』と並ぶ高専の華だ。今回はその、『第26回全国高等専門学校プログラミングコンテスト 競技部門』に参加した。

大会へ出場することは7月頃に決まっていた。大会は10月であり、実に3ヶ月前である。ちょうど梅雨とさよならしようとしていたころ、脳天気にも私はこう考えていた。夏季休業中にのんびりやればいいのだ、と。

失念していた。5年生に夏季休業なんてものは存在しないということ。『卒業研究』である。加えて、私は編入組であった。前期の卒業研究の遅れを取り戻す必要があったのだ。とてもじゃないが、競

技用のプログラムを打つ余裕はなかった。

そして、表題に行き着く。開発期間は一週間。学校の名誉の為にも犬死するわけにはいかないのだ。たださえ貴重な出席日数を浪費し、死の行軍を強行する他選択肢は残されていなかった。

結果は、68高専・大学中12位。まさかのベスト16である。

なんでも、ここ十数年ぶりの快挙らしい。バントでホームランを打った気分とはこういうことを言うのだろう。

満身創痍で疲れ果てたが、今なら表題の質問に答えられる自信がある。

168時間あれば、高専生でも十分戦える。



## 第9回 歯みがきロボットコンテストに参加ス

### 歯みがきロボコンに参加して

5E1 小倉 祥基

私は、2015年10月4日に勝山市の越前大仏大仏殿で開催された歯みがきロボットコンテストに参加しました。歯みがきロボコンとは、大仏様の模型の歯についている虫歯菌を、ロボットを駆使して落とすというコンテストであり、今年で第9回大会を迎えました。主催は福井県歯科医師会ですが、福井高専も毎年協力しています。

このコンテストは、リモコン部門と自律部門に大別され、私はその中の自律フリーの部に参加しました。大仏の歯をみがくためには、スタート地点から大仏の下まで行かなければならないのですが、自律部門用に、コースにはあらかじめ黒い線が引かれています。そこで、ロボットに複数の光センサーを取り付けて、ラインレースをして大仏までたどり着くのが自律部門の基本ですが、私の製作したロボットは少々違います。光センサーは一つも積まず、複数のサーボモーターを用いて

作ったアームに取り付けた小型カメラのみでラインレースを行います。サーボモーターを用いることで、小型カメラで様々な方向を撮影することができ、視認性の向上を目指しました。

しかし、これは光センサーを使うラインレースとは全く異なる技術を要求される方法であり、製作は難航しました。なんとか形になった機体を手に揚々とコンテストに挑んだのですが、結果は振るわず準決勝敗退。悔いを残すものとなりました。



## 活躍する仲間

## 第11回 全日本学生室内飛行ロボットコンテストに参加して

## 無念の第11回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト

5E1 廣島 健亮

『ロボコン』と聞くと何を思い浮かべるだろうか。恐らく、多くの人はいく少くとも高専関係者なら——NHKが毎年のように放映している、『アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト』を思い浮かべると思う。この、通称『高専ロボコン』に魅力を感じて高専入学を決意した学生は非常に多いのではないだろうか。しかし、今回私が参加したものは、それとは一風変わった、もう一つの『ロボコン』だ。

表題——通称『飛行ロボコン』——はその名の通り、飛行ロボット、つまるところ、ドローンや模型飛行機がメインのロボコンだ。

全国の高専、大学が模型飛行機的设计・制作を行い、手動制御部門、自動制御部門、ユニークデザイン部門の3つの部門のうち、いずれかに出場することができる。

今回、我が校が出場したのは、その中でも最も人気の高い自動制御部門だ。

この部門では、水平旋回、8の字旋回、着陸……といった飛行演技をコンピュータによる自動制御で行い、その完成度を競い合う。単純明快な競技ルー

ルだ。

結果から言うと、予選で敗退してしまった。勿論、勝算はあった。

操縦者のコンディションも十分、予行演習の数十倍の力を発揮してくれた。肝心の自動制御も、他のどのチームよりも完成度が高い自信があった。

——競技本番、ひとつのサーボモーターがピクリとも動かなくなってしまったのだ。

繰り返すことになるが、予選で敗退した。

飛行練習の間、何ひとつ問題なく動作していたのだ。これほど、悔しいことはない。

しかしながら、不測の事態というものにはつきものなのだ。この無念を、次の世代が晴らしてくれることを祈るばかりである。



## 第8回 関数グラフアートカンファレンスに参加して

## 「こだわり」を持つこと

4M 上村 海

私は一年の時から関数グラフアート大会へ作品を応募していたのですが、代表者として東京で開かれる関数グラフアートカンファレンスに参加することはありませんでした。しかし、今回ようやく代表として第8回関数グラフアートカンファレンスに参加することができました。

私の作品は、インターネットで見つけた羊のイラストをグラフで表現したのですが、そのイラストをただコピーするのではなく、羊の毛の質感をさらに際立たせるために、毛を表現している式にひと工夫加えました。

カンファレンスには口頭発表とポスター発表があり、私はその両方で発表をしました。口頭発表の際に、私は自分の魅力であるひと工夫について説明しました。口頭発表の後のポスター発表では

「このこだわりが大事だね。」「ひと工夫してある部分が良いね。」と、評価してくださいました。自分がこだわって加えたひと工夫を評価してもらえたという事実は、私に自信を持たせてくれました。そして、最終的には私の作品が最優秀賞を受賞することができました。

今回、私がグラフアートカンファレンスで最優秀賞を受賞できたのも、この「こだわり」があったからだと思います。



## ▶▶▶ 平成27年度福井県高等学校将棋選手権大会成績 ◀◀◀

(平成27年5月23日(土)) 福井新聞社7階ホール(福井市大和田町56)

【団体】

優勝 小田 樹也(3E)・奥田 真史(2E)・  
谷川 友基(F4)

【個人A級】

優勝 井上 貴仁(F5)  
第3位 山岸 大悟(3C)

## ▶▶▶ 第39回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会福井県大会成績 ◀◀◀

(平成27年5月24日(日)) 福井棋院会館(福井市日の出3丁目15-20)

中島聡士(3M)、布田匡希(2B)

二人とも2勝2敗(布田君は近畿高等学校総合文化祭囲碁部門(鳥取大会)団体出場)

## ▶▶▶ 第28回全国高等学校将棋竜王戦福井県大会成績 ◀◀◀

(平成27年7月18日(土)) 本願寺派福井別院(西別院)(福井市松本4丁目9-21)

【A級】

優勝 小田 樹也(3E) 準優勝 谷川 友基(F4) 第3位 井上 貴仁(F5)

## 第39回全国高等学校総合文化祭将棋部門 兼第51回全国高等学校将棋選手権大会(滋賀大会)に参加して

### 初めての全国大会

F4 谷川 友基

今年の7月28日から2日間かけて、第39回全国高等学校総合文化祭将棋部門が行われました。この大会は、私が高専に入学してから初めての全国大会だったので、とても緊張したことを覚えています。この大会は、各都道府県から3人1組のチーム1組と個人二人が出場してそれぞれ団体戦と個人戦として優勝を目指すものでした。私は団体戦の三将として出場しました。

団体戦のルールは、各チーム大将・次将・三将がそれぞれ戦い、より多くの勝ち星があるチームが勝利というものです。三将という位置は一番勝ち星をとりやすいので、先輩方の足を引っ張らないためにも全勝を目標としていました。しかし、予選で4回の対局のうち一度だけ負けてしまい目標を達成できませんでした。チームで3勝すれば決勝戦に出場できたのですが、

残念ながら2勝止まりとなり、個人戦の方も決勝戦には出場できなかったそうです。

結果は残念なものとなってしまいましたが、全国大会に出場したという経験は私にとってとても貴重なものになりました。

最後に、この大会に参加するにあたり支援してくださった方々や支えて下さった皆様には大変感謝しています。ありがとうございました。



## ▶▶▶ 第39回全国高等学校総合文化祭将棋部門兼第51回全国高等学校将棋選手権大会(滋賀大会)成績 ◀◀◀

(平成27年7月28日(火)～29日(水)) 滋賀県立文化交流会館(米原市下多良2丁目137)

【団体】

予選リーグ 2勝2敗 予選敗退(47都道府県中22位)

【個人】

96位

## 活躍する仲間

## 第39回 全国高等学校総合文化祭吟詠剣詩舞部門(滋賀大会)に参加して

## 高文祭に出演して

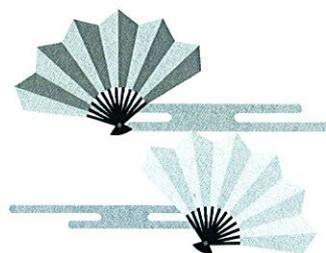
F3 鳥山佳音

私は、今回、高文祭の吟詠剣詩舞部門に出演させていただきました。この、高文祭という舞台は私にとって小学校の頃からのあこがれでした。高校生の人達だけでつくる舞台は、若い力にあふれていてとても感動します。私も、ようやく高校生になってその舞台をつくる一員になれたことがとても嬉しかったです。

私達の表現した物語は、開催された滋賀県と関係の深いあじまの恋物語でした。内容は、福井出身の天皇の継体天皇と恋人との愛を花力ゴを使って表現するというものでした。吟舞で恋愛ものをするのが、私にとっては初めての経験で、分からないことやできないことだらけでした。皆忙しい中、集まって練習できる数も少なく、練習は本当に大変でした。しかし、年が違っても、小学校からずっと一緒に踊ってきたメンバーがほとんどだったので、練習が少なくても自然と息が合うようになりました。

そして、当日になり、驚いたのが、スタッフの高校生の礼儀正しさでした。スタッフは、滋賀の高校生がやってくれたのですが、出演者に対してのあいさつや対応が本当にいい感じでした。本当にそれがありがたかったです。

高文祭は、たくさんの人に支えられて今回出ることができました。各学校の先生、スタッフをしてくださった高校生、一緒に出演してくれた仲間達、そして、支えてくれた家族に感謝しています。



## 第28回 全国高等学校将棋竜王戦(福岡)に参加して

## 僕の「高校」最後の夏

囲碁・将棋部 3E 小田樹也

今回の全国高校竜王戦は8月18・19日に福岡で開催されました。この大会の特徴は、他の全国大会(全国総合文化祭や近畿総合文化祭)とは違い各都道府県で一人しか代表になれないため、非常にレベルの高い戦いになります。また、個人戦しかないので、県予選では同じ学校の部員と枠をかけて争うこともあります。

予選は4人1組で二勝通過二敗失格です。まず1回戦は広島代表の藤原君。攻めていましたが、押し切れず負け、2回戦は栃木代表の福田君。実は、全国総合文化祭では山梨学園大学附属高校で入賞していた為、警戒していました。しかし、これも一歩届かず、予選落ちとなりました。

予選敗退後に行われた糸谷哲郎竜王杯争奪大会では準決勝まで進みましたが、地元福岡代表の玉木君

に敗れ、僕の「高校」最後の夏は終わりました。上の学年に強い先輩が居たため、初めての個人代表でしたが、他校とのレベルの差を感じました。あとは近畿総合文化祭で高校の大会がありますが、最後の大会で良い成績を残せるように励みます。

今回の大会でお世話になりました学校関係者の方々に御礼を申し上げます。



## ▶▶▶▶ 第28回 全国高等学校将棋竜王戦(福岡)成績 ◀◀◀◀

(平成27年8月19日(水)~20日(木)) 電気ビル共創館(福岡市中央区渡辺通2-1-82)

【結果】 小田樹也(3E) 予選敗退(予選敗退者による試合あり<2勝2敗>)

## 第22回 全国高等学校専門学校将棋大会に参加して

### 全国高等専門学校将棋大会 (マネージャーとして)

私は、8月24~26日に島根松江市で行われた全国高等専門学校将棋大会にマネージャーとして参加させていただきました。

私は、対局こそ行えなかったものの、部の先輩の方々の対局を拝見させていただいたことで多くの事を学ぶことが出来ました。自分がまだ知らない手筋、囲い等を知って私はまだまだ考えが甘く練習が足りていないことを痛感しました。

団体戦は25日、個人戦は25日、26日にそれぞれ行われましたが、団体戦前夜は、部員でトランプを行う等緊張した様子ではなく、とてもリラックスしている様子でした。

団体戦には、大将として1年生の谷川君、副将として3年生の小田先輩、三将として1年生の井上君が福井高専の代表として出場しました。残念ながら初戦リーグ敗退という結果で終わってしまいました。団体戦メンバーはとても悔しそうでした。

個人戦では、団体戦メンバーを除いた4名の先輩方々が出場しました。1名のみ予選を通過することが出来ました。残念ながら決勝トーナメント1回戦

囲碁・将棋部 F4 山口綾友

敗退という結果で終わってしまいました。

私は、先輩方がこの結果に満足しているとは思えません。

この悔しさを持って来年、団体戦は優勝、個人戦では、全員決勝トーナメント進出を目指してほしいです。

また、私はマネージャーとしてではなく選手として来年の大会へ参加します。

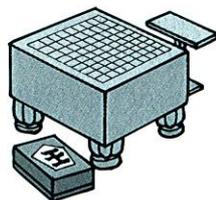


## ▶▶▶▶ 第22回全国高等専門学校将棋大会成績 ◀◀◀◀

(平成27年8月24日(月)~26日(水)) 松江しんじ湖温泉 すいてんかく 花の宴の間(1F) (松江市千鳥町39)

【団体】

2勝1敗



【個人】

三村 優太(4B) 0勝2敗

田保 久博(3M) 0勝2敗

山岸 大悟(3C) 2勝1敗

(決勝トーナメント1回戦敗退(ベスト64))

布田 匡希(2B) 1勝2敗

## 活躍する仲間

## 第47回 福井県吹奏楽コンクール兼第63回全日本吹奏楽コンクール福井県予選に参加して

## 第63回全日本吹奏楽コンクールに参加して

吹奏楽部 4B 小西 希 依

7月26日日曜日、私達は第63回全日本吹奏楽コンクールに参加しました。去年まで参加していた中部日本吹奏楽コンクールのフェスティバル部門が無くなり、この大会に参加することを決めた私達でしたが、練習場所の制限、足りない時間。

そしてなにより、期末試験中の大会というだけに練習とテスト勉強の両立、決して余裕があるとは言えない状況の中、放課後や休日を返上し努力しました。私自身、部長という立場で、部員をまとめることも大変でしたが、練習内容を考えたり、予定を組んだりすることに必死で、何度も挫折しそうになりました。

しかし、相談に乗ってくれる友人、支えてくださる先生方、そしてなにより一緒に練習を重ね努力してきた部員達のおかげで、立ち止まることなく前へ進み続けることができたのだと思います。

そして迎えた本番当日、舞台袖であわただしく準

備が進み、あっという間にステージの上に立ち、みんななどことなく緊張した様子でしたが、いざライトを浴びると、それもどこかへと消え、1人1人が練習してきた精一杯の演奏ができたと思います。本番を終え、やり切ったという達成を感じました。

結果は銀賞と金賞には届きませんでしたが、みんなと同じ目標をめざしてきたこれまでの過程の中で、何か大切なものを得ることができたような気がします。

来年のコンクールでは今回の結果をバネにして、なお一層成長した部員達が良い結果を残すことに期待するばかりです。



## 保育ボランティアを経験して

## はじめての保育ボランティア

4E 三田村 竜 希

今回はじめて保育ボランティアに参加させて頂くことになり、保育園に行くまでは少し緊張していました。保育園に到着して、保育士の方に「お兄さんやお姉さんが遊びに来てくれるとやっぱり子供たちは喜んでくれますか?」と伺うと、すごく喜びますよという答えが返ってきて少し安心しました。

僕は年長組を担当することになり、部屋に入るとすぐに「お兄さんがきた!」と男の子たちが駆け寄ってきました。元気にぶつかってくる子供たちのおかげで緊張はすぐに吹き飛び、むしろ僕も負けなぐらい元気に遊ぼうと思いました。

子供たちとは色々なことをして遊びましたが、なかでも楽しかったのはプールの時間です。子供たちと鬼ごっこしたり、水をかけあったりと、童心に戻って遊びました。また、みんなの前でクロールを泳いで見せたりもしました。

みんなの前でラジオ体操したり、ご飯を一緒に食べたり、絵本を読み聞かせたり、お昼寝で寝かしつけたり…と色々な事を経験させてもらえ、そうしている間に一層みんなと仲良くなれてすごく楽しかったです。

保育ボランティアを通じて、子供たちのことがより好きになりました。また、少しでも子供たちに必要とさせて嬉しく感じました。機会があれば、また保育ボランティアに参加したいです。貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。



## 第51回 高専祭

### 秋空に舞い上がるバルーン

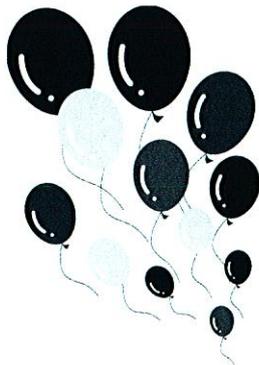
学生主事補 加藤 敏

本年度の高専祭は10月16日(金)から19日(日)に開催されました。「+1～一人一人が～」と題して、昨年度の第50回の節目からプラスワンというテーマの下で行われました。

本年度も実行委員諸君の日頃の行いが良いのか、晴天に恵まれたこともあり、保護者や卒業生をはじめとした多数の来客で大変賑わった高専祭となりました。

専攻科を含む多数のクラスや部活動等が35の露店を出店し、これまでのように賑やかな高専祭となりました。校舎の修繕中ということでテントやその設置場所、さらにはゴミ処理、駐車場確保の問題などが危惧されましたが、実行委員の細やかな対応によりスムーズな運営ができました。ゲストの「シュノーケル」のライブでは本校の校歌を歌い、オーディエンスと一体となった盛り上がりを見せました。各部活動等のパフォーマンスも盛況でした。

昨年度は学生会合同企画として「花火」の打ち上げを行い大変好評でしたが、本年度の学生会との共同企画は創立50周年を祝う「バルーンリリース」を行いました。短冊に願いを込めて放垂れた1600個のバルーンは思いの外美しく、みんなの希望を乗せて飛んで行きました。限られた予算内での厳しい条件ではあったものの、学生諸君が感動の色を隠しきれない姿をさらけ出していたのが印象的でした。



### 高専祭を終えて

高専祭実行委員長 4E 佐野 純 希

今年も高専祭が無事に終わりました。去年に引き続き、天候にも恵まれ3日間ともに快晴で過ごしやすかったことと思います。たくさんの人に支えられ何事もなく終えることができ本当に良かったです。

去年の高専祭の片付けの日、私は去年の実行委員長から来年の実行委員長はお前だと任命されました。運命のいたずらか本当に耳を疑いました。私の父は福井高専出身です。今でも廊下ですれ違うと父のことを言ってくる先生がおられるほど、やんちゃな学生だったそうです。そんな父も三十年ほど前高専祭実行委員長を務めていたのです。

今年のテーマは「+1～ひとりひとりが～」ということで福井高専創立五十周年にふさわしいテーマでした。そんな長い歴史の中で親子二代に渡り高専祭実行委員長をするなんておかしな話です。

今年の高専祭は、地域の方々からの参加者を募った『克災グルメコンテスト&火おこし競争』、一般の方々もたくさん参加して下さった『FNCTミッション』、兵神装備株式会社後援のもと行うことができた『調理器具コンテスト』など多くの人たちを巻き込んでの催し物をたくさん行いました。

皆さん笑顔で楽しんでおられて本当に良かったです。運営側として喜んでもらえたことが一番幸せでした。

支援して下さいました先生方には大変ご迷惑をおかけしました。本当にありがとうございました。



## 活躍する仲間

## 球技大会

## 球技大会を終えて

2C 私市 篤哉

今年も10月7日の水曜日に、第一体育館、第二体育館にて球技大会を行いました。今年の球技大会は、バスケットボール、バレーボール、フットサルの三球技で行いました。今年は昨年と比べ、ルールの変更が大きく混乱した人も少なくはなかったと思います。実際に、人数不足による不戦敗また、相手チームの不戦敗による不戦勝や交代ルールの無視など、ルール違反が昨年よりも多かったように思えます。しかし、バスケットボールに導入した女子ルールにより、女子が活躍したりバレーボールの「部員によるアタック禁止」というルールを廃止したことにより、予想以上の盛りあがりを見せたり、先生方が球技に立ち会ってくださったおかげで大きな問題が起こらなかったりなど、良かった点も多々ありました。僕の確認ミスや伝達不足にも、実行委員が臨機応変に対応してくれて、球技大会を無事に終わることが出来ました。今年した失敗や反省、良かった点などをしっかりと次期球技大会長に引き継ぎ、来年の球技大会をよりよいものにしたいと思っています。

当日に球技大会に参加して下さった皆様、試合に立ち会ってくださった先生方、参加して下さった先生方、少ない人数でたくさんの仕事をしてくれた実行委員の皆様、本当にありがとうございました。

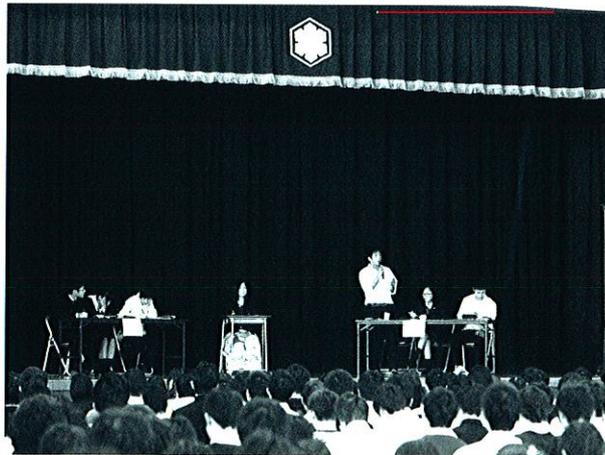


## 弁論大会

## 弁論大会を実施して

3B 山 貫 緋 称

今年も10月15日(木)に第一体育館にて弁論大会を実施しました。福井高専の弁論大会は、研究者・技術者を目指す学生ならではの専門的な思考に加え、討論するテーマのバリエーションが豊富であることが大きな特徴です。2・3年生の各クラスから3名ずつ弁士になっていただき、「福井高専の売店にATMを設置すべきである」「思い出に残すのに良いのは動画である」「普通高校より高専に入学した方が得である」「『サザエさん』のカツオ君は花沢さんと付き合うべきである」「女性の最大の武器は涙である」について、ジャンケンで肯定側・否定側を決定し、闘っていただきました。弁士の人には、夏休み前から準備を始めていただき、その成果がはっきりと出ていて、聴衆から拍手が出る立論や反駁も多く見られました。先生方の審査の結果、最優秀賞は3年機械工学科で、前年度に引き続き2年連続の受賞となりました。また、エキシビジョンマッチでは、荒川先生、江本先生、伊勢先生チームと五味先生、宮本先生、西先生チームに分かれて、「恋は愛よりも魅力的である」についてディベートしていただきました。両チーム白熱した闘いとなり、聴衆も真剣に見入っていました。今回、私は面白い弁論大会を目指して準備をしてきました。ご協力いただいた先生方、学生の皆さん、本当にありがとうございました。



## クリーン大作戦

### クリーン大作戦

3E 木 瀬 貴 絵

今年も、無事にクリーン大作戦を終えることができました。参加、協力して下さった皆様、本当にありがとうございました。

今年は、例年と違い1年生から5年生の各クラスから参加者を募集しました。各クラス最低2名出して頂くようお願いしたため50人集まれば上出来と思っていました。しかし、3名や5名も出て下さったクラスやクラスの枠を超えてボランティアとして当日参加して下さった方、お手伝いの実行委員のみなさんや同行して下さった先生方、総勢79名がクリーン大作戦に参加して下さいました。各露店から強制参加をお願いした昨年より少ないものの、善意、ボランティアとして参加して下さった方がたくさん居たことは、クリーン大作戦を実施するにあたりとても良いことだと思いました。

また、参加者に書いて頂いたアンケートでは「楽しかった」「来年も参加したい」という意見や「心が綺麗になった」「素晴らしい企画だと思う。続行すべき」など実施して良かったと思う意見や感想ばかりでした。このクリーン大作戦は、普段登下校などでお世話になっている地域を感謝の気持ちでゴミ拾いをして美化するという趣旨で行っています。そのため、強制ではなく自主的に参加して下さる方が増えると実施している側もとても嬉しいです。面倒くさいと思う人も絶対良い経験になると思うので、次回は是非参加してみてください！



## 被災体験

### 防災交流

4M 垣 谷 悠 介

4年前、東日本大震災が発生した年から防災に関連した企画が始まり、今年度からは、高専祭実行委員会の防災交流部門を特設するまでになりました。4月から準備をし始めて、「今年はグルメコンテストと火おこしをしよう!」と決めたものの、準備を進めていく中で、「本当にこれでいいのか?」という思いが強くなっていきました。本校や越前市、鯖江市に後援をしていただくことになり、事の大きさを実感していきました。準備の際、何度も想定外のことがありましたが、たくさんの人の支えにより、何とか当日までこぎつけることができました。

当日は、校長先生を始め越前市、鯖江市の職員の方や防災士会の方など、たくさんの人達が来て下さいました。いくつか問題はあったものの、無事に終わることができました。私にとっては「大成功した」と言えるような出来ではなく、少し落ち込みました。しかし、その中で「楽しかった」や「来年もしたいな」など参加者の方々から言って頂けて、本当にやってよかったなって思いました。

今回の行事は、私が成長する過程において、とても良い機会になりました。機械工学科としてあまり触れることのない防災について学び、たくさんの方と交流することが出来ました。「防災を通して、たくさんの人と交流する」という思いを込めて付けたこの部門名。こういった行事が、これからも続いていくことを願っています。



活躍する仲間

高専祭

# 活躍する



# 仲間たち



## 活躍する仲間

## 平成27年度 教育後援会研究奨励一覽

学科 学年	申請者	研究題目	指導教員名	交付金額(円)
5E	藤原 健	レスキューロボットの開発	河原林友美	150,000
3M	笠嶋 遥	福井県およびその周辺における地殻活動の研究	岡本 拓夫	35,000
3B	山貴 緋称	メタルを用いた単純支持橋の模型作製	吉田 雅穂	100,000
5M	清水雄太朗	3Dプリンタを用いたメガネ用レスキュー笛の製作	安丸 尚樹	81,000
4M	林田 剛一	高専ロボコン出場ロボット「Mr. イカフライ」の開発	千徳 英介	150,000
5E	坂 直幸	小水力発電機の製作と設置	田安 正茂	101,034
4M	山崎 港大	ロボット「福輪来」の開発	亀山建太郎	150,000
5B	中井 悠仁	全国高専デザインコンペティション デザイン部門への参加取組(3次元デジタル・環境・空間)	江本 晃美	100,000
			計	867,034

## 平成26年度 教育後援会奨励研究概要報告

## 「高専ロボコンに出場して」

ロボット部 4E 佐野 純 希

昨年十月、金沢にて『出前迅速』をテーマに高専ロボコン東海北陸地区大会が開催されました。私たちは大会に出場するロボットを製作するために、教育後援会研究奨励費を使わせていただきました。

昨年のロボットは、積み上げた蒸籠を落とさず、障害物をクリアするために、様々なアイデアを取り入れました。私たち福井高専Aチームは、蒸籠を落とさずに運ぶアイデアとして、中華鍋のような半球に自在に動くお盆を入れ、あえて揺れ易くして振動を吸収させることにより蒸籠の運搬を可能にしました。その結果、特別賞とアイデア賞を受賞することが出来ました。結果的に賞を取ることができましたが、日々調整を繰り返し、たくさんの失敗を重ねました。その中で部員たちが協力し一台のロボットを完成させ、何らかの形で評価をいただくという本当に良い経験をさせてもらいました。

来年度も今回の反省点、改良点を踏まえてロボコンに臨んでいく所存です。最後に、大変大きな支援をしていただき本当にありがとうございました。

## 「高専ロボコン『出前迅速』に参加して」

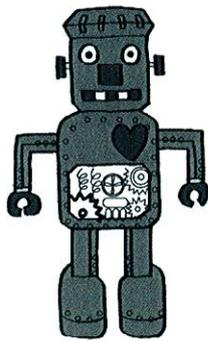
3E1 藤戸 貴 大

昨年度の高専ロボコンの競技課題は「出前迅速」でした。ルールとしては、高専生が出前ロボットに蒸籠を積みスラローム・角材・坂の3つのゾーンをロボットが移動し蒸籠を落とさずゴールまで競技を進めていくというものです。今回私たちのロボットは越前おろしそばをイメージした大きな大根をのせた出前ロボットと蕎麦屋の幟をイメージした受け取りロボットを作製しました。

詳しいロボットの機構としては、出前ロボットは発泡スチロールで大きいタイヤを作り、角材の幅に合わせた溝を付けることで角材ゾーンを通過できるようにしました。又、後輪を上下に動かし台を左右

に稼働させることで蒸籠を落とさずに坂ゾーンを通過できるようにしました。受け取りロボットは前後左右の動きと回転を可能にし、どこから出前ロボットが来ても迅速に受け取れるようにしました。

夏休みも毎日活動し、メンバー全員が1つになりロボット製作に取り組みました。昨年度はいい結果が残せませんでした。メンバー全員が新しいことに挑戦し難しいこともありましたが、楽しく活動できました。



## デザコン楽しい

4B 敦賀 勇介

昨年、私はクラスメイトとデザコンに挑戦しました。私たちが挑戦したのは構造部門であり、「よりそう」というテーマでタワーの製作を行いました。まずは校内予選を勝ち抜き全国大会に出場することを目標とし、夏休みも毎日工作室で作業を行いました。そうして出来上がったタワーで予選に挑みましたが先輩たちにはかなわず、予選を通過することができませんでした。

そんな時、全国大会に進むチームの人が足りず2人加わらないかという話が舞い込んできました。誰が行くか話し合い、私と住本君が加わることになりました。モンゴルとインドネシアからの留学生の先輩達のチームに私たちが加わり「MIJ」というチームができました。MIJは、より軽く、より強く、より簡単な構造、を目標にタワー作りをしていきました。私たちはこれでもかとアイデアを出し合い、多くのタワーを試作しました。ギリギリまで修正を加えて私たちは全国大会へ挑みました。私たちのタワ

ーは、軽さ、施工の速さ、耐風試験でトップでしたが耐震試験中に部材が折れてしまい、入賞を逃してしまいました。しかし先輩達とのデザコン挑戦で、楽しい時間を過ごすことができました。

チームで意見を出し合い試行錯誤してものづくりすることはとても楽しいです。興味のある方は、ぜひデザコンに参加してみてください！

## 高専プロコンで防災支援アプリの作成

3E1 野村 弘樹

昨年度の高専プロコンの課題部門は、「防災・減災対策と復興支援」で、地震で携帯電話が使えない時に携帯どうしの近距離通信機能を活用したものを作れないかと考えました。そこで私たちはRaspberry Piという小さなパソコンと無線LANを用いて小型サーバーを作成し、作成したスマートフォンアプリと併用する事で、震災などで孤立してしまった地域で情報交換を可能とするシステムを作りました。開発にあたり、Raspberry-Piや小型の無線LANルータを研究奨励金で購入し、動作する環境を構築しプロコン本戦の会場でデモをすることができました。

今回が初めての参加だったので色々わからない事もありましたが、仲間と協力していいものが作れたと思えました。結果は企業賞と副賞の3Dプリンタをもらう事ができました。これを機に色々な事に進んで挑戦し、積極的に賞を狙っていきたいと思います。



## 活躍する仲間

### 第4回小水力発電アイデアコンテスト

THE研究会 1ES 橋本 涼

私たちTHE研究会は毎年開催される小水力発電アイデアコンテストに参加しました。福井高専は第二回、第三回大会において二年連続で最優秀賞である金賞、地域貢献賞を受賞してきました。そして昨年度、第四回のコンテストに参加しました。昨年より、活動場所が新しくなり、新しい環境において製作活動を行うに当たって、教育後援会奨励金において電気回路用電源装置、工具を購入しコンテストの電気回路作成に使用しました。結果、技術賞3位、アイデア賞3位、地域貢献賞2位という全受賞部門入賞という成績を残すことができました。今回、金賞こそ逃したものの、私たちはチームで協力して一つのものを作り上げることの大変さ、作ったものが人の役に立つことの嬉しさとその達成感を学ぶことができました。教育後援会を始め、ご協力いただいた皆様に心から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

### 福井県およびその周辺における地殻活動の研究

地球物理学研究会 3M 笠嶋 遥

私たち地球物理学研究会は、この奨励研究で地震活動や地盤特性についての観測と研究を行ってきました。

特に、福井県内の地震活動と地球磁気現象との関連性について、統計的に調査しています。

本年度も昨年度に引き続き防災ラジオの作製、池田町の観測室への訪問、西山公園内の地震計の観測、福井地方気象台への見学を行いました。

研究会の主な活動としては地震発生時の減災を目的として、地震の情報を迅速に発信する防災ラジオの作製に力を入れました。観測活動として、今立郡池田町観測室(T I J)で観測装置のメンテナンスとデータのダウンロードを行いました。

また、京都大学北陸観測所観測坑のデータを物理

教室で定期的に解析しました。さらに、現在、西山公園内に地震計の設置をしており、公園内で地震計のデータを定期的に交換し、本校の物理教室で解析用フォーマットに変換しています。

昨年度に引き続き、福井地方気象台への見学を行いました。この見学によって地震への知識を広げ、研究への意欲を高めることができました。

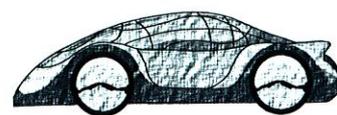
### 2014 Ene-1 GP SUZUKA

5E 吉村 淳也

私達福井高専 Ene-1 GP チャレンジは、鈴鹿サーキットにて開催されているEne-1 GP SUZUKAに出場するための車体製作を行いました。2013年度の研究で車体の大部分の設計が終わってしまいましたが、製作に使う材料の選定や加工などに時間がかかり、車体と呼べる状態になったのが大会の1ヶ月前でした。

車体の走行試験では、強度不足で車体が破損するなど様々な問題が起りましたが、昨年8月に開催されたEne-1 GP SUZUKAに参加することができました。大会参加が初めての私達は、会場の雰囲気圧倒されながらも車検などの手続きやコースの下見などを終わらせ、出走することができました。

結果は、ダンロップコーナーと呼ばれる登り勾配7.8%の地点にてモーターの基板が故障し、車体が走行不能となったため途中棄権となりました。悔しい結果となりましたが、この製作を通してものづくりの大変さや楽しさを強く感じることができました。教育後援会をはじめ、この製作でご協力いただいた方々に心より御礼申し上げます。



## 平成27年度 キャンパスプロジェクト採択一覧

学年	学 科	代表学生	テ ー マ	連絡教員	交付金額(円)
2	電気電子工学科	小山田瑞季	排水による水力発電	西城 理志 (電気電子工学科)	100,000
4	電気電子工学科	清水 大雅	焼き芋機の改良	五味 伸之 (機械工学科)	99,000
5	電子情報工学科	眞名垣優愛子	高専祭における高専生の創作活動の合同展示会の実施	岡本 拓夫 (一般科目教室)	93,000
3	電子情報工学科	宇野 喬人	ティーバッティング用ネットの作製	辻野 和彦 (環境都市工学科)	100,000
5	電子情報工学科	野村 信吾	レーザー加工機を用いた実験室・教員室のLEDアクリルプレートの作製	小松 貴大 (電子情報工学科)	97,000
				計	489,000

## 平成26年度 キャンパスプロジェクト概要報告

## キャンパスプロジェクトを経験して

5Ei 堀 江 龍 太

昨年度のキャンパスプロジェクトで私は高専祭用のスマートフォンアプリの開発を行いました。例年配布されるパンフレットは露店の情報が分かりづらく、店舗によっては売っているものがわからなかったりすることも少なくありませんでした。そこで露店の情報をパンフレットとは別に配信できるようにと露店の一覧と詳しい情報を見ることが出来るスマートフォンアプリの開発を考えました。

昨年度の9月にはインターンシップに行き、その時にインターンシップ先でもデザインについてアドバイスを頂き、シンプルな画面構成を心掛けて開発に取り組みました。また、実際に使用していく上で運用側も必ずしも電子情報工学科の学生が担当できるとは限らないので、専門知識がなくてもデータの更新がExcelなどでも行えるようにしました。

最終的な結果として、ある程度は完成しましたが高専祭には間に合わず実際に高専祭で使用することはできませんでした。また、今年の9月にも内定先の企業へインターンシップに行き、実際のソフトウェア開発の現場を体験した今、振り返ってみると昨年度の自分の知識の無さや作りこみの甘さを実感します。自分を戒める意味でもとても経験になりました。

## 動画制作を行って

放送メディア研究会 4C 松 島 雛 子

放送メディア研究会は、昨年のキャンパスプロジェクトで「福井高専紹介動画制作」を行った。この動画は中学生を対象としたもので、高専をPRする内容となっている。

企画の段階では、どうしたら中学生の印象に残るものになるかを中心に、動画の雰囲気考えた。話し合った結果、キャラクターを作ったり、ポップな色を使ったりすることが決まった。実際この動画を見た中学生から、キャラクターが可愛いとコメントをいただいたので、話し合ったかいがあったと思った。

さらに工夫した点が、実験の動画を多く入れることだ。この撮影は、多くの先生や学生の協力なくしては行うことができなかった。実験の動画をのせることで、高専の魅力をより伝えることができたと思っている。

今回の制作を通じて普段は関わることのない他学科の方と関わることができ、さらに動画制作の楽しさを感じた。今後も人とのつながりを大事にしながら動画制作を行っていきたい。

## 活躍する仲間

### 練習をより良い環境で

硬式野球部 4B 竹島 僚汰朗

我が福井高専のグラウンドには、散水設備がありませんでした。普段の練習や練習試合を行う上で、水撒きはとても大切です。熱中症対策という観点もあるのですが、水を撒かないと土が乾いて砂埃が飛んだり、地面が凸凹になってイレギュラーが発生したりして怪我にもつながります。水を撒くことで安全でより良い環境での練習が可能になります。

平成26年度のキャンパスプロジェクトでは、雨水を積極的に活用した散水装置の製作を行いました。水は、なるべく雨水を利用しようと考え、農業用のタンクに部室の屋根に集まった雨水を貯水することを考えました。消防用のホースとエンジンポンプをつなぐことにより、高圧で内野全体に水を撒けるようになりました。一昨年度の手作りトンボと併せて昨年度の散水装置を活用することにより、グラウンド整備もしっかり行うことができました。部員もより一層気合を入れて練習できる環境が整いました。

今年の選手権大会においても昨年に続いて一回戦を突破することができました。今後も県大会ベスト8以上の成績を取めることを目標に頑張っていきます。キャンパスプロジェクトに採択して頂いたことに感謝します。ありがとうございました。

### 女子寮における居住空間の断熱効果の検証について

5E 前川 華歩

活動学生	前川 華歩 (電気電子工学科5年) 石黒 稚可子 (電気電子工学科5年) 上村 葉月 (物質工学科5年) 中本 邦子 (環境都市工学科4年) 小西 希依 (環境都市工学科4年) 宮本 紗樹 (環境都市工学科4年)
目的	建物の構造上、夏場に熱がこもりやすい女子寮の居室の窓に遮熱・断熱シートを貼り、より良い寮生活をおくることを目的とする。
活動内容(成果)	女子寮(北寮)の2階と3階の南向きの居室の窓に断熱フィルム(明和グラフィックGP-928)を施工した。断熱フィルムの効果を検証するために3階の301号室をフィルム施工居室、303号室をフィルム未施工居室として温度測定器(ログサーモDGL0100、HAKKO)による室温の測定および照度計(51012、YOKOGAWA)

活動内容(成果)	による照度の測定を行った。この際、温度測定器の器差の測定を行い温度補正した。その結果、断熱フィルムの効果によりエアコンを稼働した場合、少ない消費電力量でより良い寮生活がおくれることが確認できた。
状況	フィルムを施工した場合、フィルム無しの居室温度補正值と比較して最高温度を抑えることができるが、深夜まで室温が高く保たれていた。また、部屋中央部の床の照度はフィルムを施工することによって未施工の居室の半分程度まで下がっているが、窓際での照度低下は少ないことがわかった。これは窓ガラスの下に5cm程度の幅でフィルムを貼っていない部分が存在するため窓際での照度低下が起きなかったと考えられる。本プロジェクトの結果として、フィルムの窓への貼り付けは昼間の目隠しという副次的効果があった。
その他	窓ガラスの複層化と比較検討をする必要がある。また、検証は屋上直下の3階の居室ではなく2階の居室を用いて行うべきである。今後、寮の全居室にフィルムを施工してエネルギー消費を抑えるべく予算を獲得のための努力が必要である。 照度計をお貸しくださった、本校、教育研究支援センター、片岡裕一技術職員に感謝いたします。

### 環境棟玄関前空間の癒し効果向上プロジェクト

4B 山崎 大嗣

今回、平成26年度キャンパスプロジェクトとして環境棟玄関前空間の整備を4Bのメンバー7名で行った。整備の内容は大きく2つに分けられる。1つは環境都市工学科棟の玄関前の花壇の整備である。整備前、花壇は排水用の穴が開けられていなかったため、雨が降るたびに水が溜まり植栽のほとんどが枯れてしまう状況だった。そのため花壇のコンクリート壁に削孔を行い、花壇内の排水を確保したうえで新たな苗木を植栽し、玄関前の空間を美しく癒しを与えるというものである。もう1つは、環境都市工学科棟前のスロープ前空間の整備である。今までのスロープ前空間はただブロックで仕切られたスペースに石が敷かれたのみずぼらしいものだった。この石の上を横切る学生も多く、玄関前は常に石が散乱する有様であった。今回、そのスペースの採石を取り除き、芝桜を植えることにより新たに植栽空間として再生した。

今後は水やりなどでこの環境の維持を行っていきたい。

## 進路決定について

### 卒業・修了予定者の進路の状況

キャリア支援室長 下 條 雅 史

今年から就職活動に関する倫理憲章が改まり、就職活動の時期が大きく変更になると言われていたものの、正に今最終的な進路の選択が始まる4年生と専攻科1年生の皆さんがインターンシップで実習した多くの企業では、実質的な採用活動の時期をあまり変えていないところが多いようです。しかし、8月末の内々定者数は、実数では、昨年より多いものの、今年の就職希望者が昨年より多いことから、その就職希望者数に対する割合では、昨年の同期と比べ1割程度、9月末でも、5%ほど低くなっており、就活時期の変更の影響が皆無とも言い切れません。中には、8月解禁の採用試験の会社を希望していたものの、活動がうまく行かず進路の決定が遅れた人もいました。従って大手に多いそのような企業を希望する皆さんは、もしもの場合に備えて、計画的戦略的に採用活動に取り組む必要があります。

皆さんにとって有利な進路の決定が進むように担任・専攻科委員の先生方と協力して情報を提供していきますが、皆さん自身も、担当の先生方と連絡を密に取りながら、自分の将来を設計する意識をさらに高め、就職対策講座、進路情報の検索システムや合同企業説明会などを通じて、企業や進学先の研究を怠ることなく進めてください。一年後には必ず希望の進路が決定していることと信じます。

3年生以下の皆さんも、キャリアガイダンス等で

申請しているとおり、早期から生涯設計の意識を持ち、その中で少し先、例えば10年後の自分の理想像を描き、そこから卒業時、1年後の目標を立てて自己研鑽することが肝要です。本校では、見学旅行・校外研修に加え、卒業後の進路の選択について聴講するキャリアガイダンス、働き始めてからの経験を聞く先輩講座、2年生対象に、進路の決まった5年生や専攻科生から進路の選択について話を聞く先輩フォーラム、企業経営者の方から働くことの意義や社会に必要な能力について聴講する職業研究セミナーなど、生涯設計や職業意識の形成にとって、参考になる行事を多く用意しています。

幸い、ここ数年で求人数はリーマンショック前に回復しましたが、大災害の頻発、中国経済の失速の可能性などの不安要素も多く存在します。その時代の社会情勢やその人の成長に従って、将来の展望は変わるものです。しかし、進学する人も含め、若い頃に生涯設計を考えていない人は、社会が求める能力についての関心も薄く、大きな経済的混乱に容易に飲まれモラトリアムを彷徨う不幸な期間を過ごすことになりがちです。是非これらの行事を機会に、現在から遠い将来にわたる自分の理想像とそれを実現するための日ごろの努力について考え実行していただきたいと思います。

## 平成27年度進路内定状況

平成27年11月25日現在

学科	区分	卒業・修了 予定者数	進 学 希望者数	内 定 者 数		未定 者数	就 職 希望者数	内 定 者 数		未定 者数	その他
				大学(院)	専攻科			県 内	県 外		
本 科	機 械 工 学 科	39 (1)	17(1)	9(1)	6	2	22	6	16	0	0
	電 気 電 子 工 学 科	40 (4)	16(1)	8(1)	6	2	24 (3)	6	18 (3)	0	0
	電 子 情 報 工 学 科	38 (5)	13	11	2	0	25 (5)	14 (3)	11 (2)	0(0)	0
	物 質 工 学 科	33(17)	15(5)	7(2)	8(3)	0	18(12)	9 (4)	7 (7)	2(1)	0
	環 境 都 市 工 学 科	45(14)	9(1)	5(1)	4	0	31(12)	11 (6)	20 (6)	0(0)	5(1)
	小 計	195(41)	70(8)	40(5)	26(3)	4	120(32)	46(13)	72(18)	2(1)	5(1)
専 攻 科	生 産 シ ス テ ム 工 学 専 攻	14 (0)	3	3		0	8	4	3	1	3
	環 境 シ ス テ ム 工 学 専 攻	14 (3)	2	2		0	12 (3)	6 (2)	6 (1)	0	0
	小 計	28 (3)	5	5		0	20 (3)	10 (2)	9 (1)	1	3
合 計		223(44)	75(8)	45(5)	26(3)	4	140(35)	56(15)	81(19)	3(1)	8(1)

表中の( )は女子数で内数

## 学生の将来と進路

### 大学編入学試験体験記

#### 大学編入学試験を終えて

5C 上村葉月

私が大学に編入学しようと思ったのは、4年生の春頃です。このまま高専を卒業して社会人になってしまっているのかという不安、また、いま学んでいる専門分野に大変興味があり、もっと勉強を続けてみたいと思ったのが編入学を決めた理由です。

しかし、編入学は想像以上につらいものでした。今まではテストで点数をとるためだけの勉強しかしておらず、どの教科も勉強不足であったため、全て1からやり直しました。寝ている時間以外は勉強の毎日でした。唯一の楽しみはご飯くらいでした。そのくらい勉強していたと思います。

5年生になると、みんな次々と進路先が決まっていき、私は不安でいっぱいでした。周りの友達は就職希望や推薦入試の子が多かったため、早い段階で進路先が決まる子が多く、自分ひとりだけ取り残されている気分でした。

そんな中、たくさんの人達の支えもあり、自分の一番いきたかった大学に合格することができました。私の元気が出るように一生懸命はげましてくれた友達、一緒になって難しい問題を解いてくれた友達、たくさん応援してくれ、合格を自分のことのように喜んでくれた友達には本当に感謝しています。また、お忙しい中、時間を割いてまで私の質問に熱心に答えてくれた先生方、本当にありがとうございました。

いろいろな人達の支えがあったからこそ、つらいことも乗り越えることができたのだと思います。本当にありがとうございました。

### 就職試験体験記

#### 公務員試験への挑戦

5B 田中幹

私が国土交通省近畿地方整備局に内定を頂くまでの体験記を書かせて頂きます。

採用への道のりは長く、辛抱の連続でした。突破しなければならない試験には、人事院の一次および二次試験があり、さらに、各省庁の採用面接があります。前者の対策として、合格へのバイブルとなる参考図書を購入し、計画的に取り組みました。次に学校で習った専門分野の復習です。一般職（土木・大卒程度）の一次試験には一般教養、専門および専門分野の課題に対する解決策を問う論文記述試験があります。一般教養は参考書等で、論文記述は新聞や土木学会誌などで対策できます。実は不採用の場合を考え専攻科学力入試の準備として専門科目の過去問に取り組んでいました。これらは重要なポイントを絞って作成されており、大変理解しやすいものでした。結果として専攻科は不合格でしたが、専門基礎の復習があつてこそ公務員に合格できたと信じています。さて、一次に合格後、各省庁の説明会へ参加しながら、二次試験の準備をしました。二次は面接試験なので、一次以上に社会の情勢や建設分野に関する話題、国際的な動向について新聞等で情報を収集しました。また、自分PRは面接カードを準備し挑みました。なぜ“国”の公務員になりたいのかを聞かれます。ここではインターンシップの経験を活かして、面接官全員と目を合わせて“国”への志望動機を強くアピールしました。

最後に、国家公務員試験の説明に来られた先輩の方々、現場見学会を初め研修旅行やインターンシップなど様々なキャリア教育を経験させて頂いたことに心よりお礼申し上げますとともに、後輩諸君の公務員チャレンジを期待します。

## インターンシップ体験記(本科)

### インターンシップを終えて

4M 蔵 孝 司

私は8月24日から9月4日までの2週間、愛知県のトーシンテック株式会社にインターンシップに行きました。

この会社はタクシーの自動ドアや福祉車輛のオートステップ等を製造している会社で、タクシーの自動ドアは国内で約9割以上のシェアを誇っています。私は開発技術グループにお世話になり、実際に設計で使っている2DCAD及び3DCADを体験させていただいたり、製品化したものの図面等を見せていただいたりしました。主な研修内容としては、タクシーの自動ドアに付加価値を付ける設計を行うというものでした。その際、アイデアを練るという構想設計から図面化して試作品を製作するまでの一連の流れを体験しました。私はその中で、実際にものを設計することの難しさや、加工・組立・アフターケア等にも配慮して設計しなければならないこと、さらには常に頭の中で考えていなければ良いアイデアは得られないことを学びました。また、部品点数削減推進プロジェクト会議に立ち会うという貴重な経験をさせていただき、部品を統一化・標準化することの大切さを知りました。

生活面では、会社が準備して下さったホテルで約2週間過ごしましたが、1日の研修が終わると職場の方々と食事に行ったり、休日にはショッピングをしたりと、研修以外にも充実した時間を過ごすことができました。今回のインターンシップで、学校で学んだ製図や機械工作法の知識が企業でも重要なことや、自分の専門分野の基礎知識がまだ足りないことが分かったので、これを糧にしてこれからの勉学や進路選択、就職活動に生かしていきたいと思いません。

### インターンシップを終えて

4Ei 金 丸 嘉 秀

私は、横浜の株式会社アットウェアに三週間、長岡技術科学大学に一週間インターンシップに行ってきました。特に長期間研修を行ったアットウェアでのインターン内容について話したいと思います。

アットウェアでは、私を含め、大学とベトナムから来ている学生三人でチャットサイトを作成しました。何故そのような経緯に至ったのかを説明したいと思います。まずみなさん、SNS等で嫌な思いをしたことはありませんか？自分がそういう経験はなくても他の誰かが傷ついているのを見たことはありませんか？確かに自身のホームページやブログ等ではある程度自由な発言が許されるのかも知れませんが、誹謗中傷はしてはいけません。しかし、その反面、そういった場所じゃないと自分の思いを吐き出せなかったり、まったく知らない第三者に見て欲しい、知って欲しいという想いも分かります。そこで私達が作ったのは、「嫌な思いを吐き出せる」けれども「見た人が嫌な思いをしない」という、相反する2つのことの実現を目指したチャットサイトです。このサイトでは、特定の言葉を入力するとランダムに全く違うユーモアのある言葉に変換します。こうすることで自分の思いは吐き出せつつ、それを見た人は例え悪口を言われた本人ですら何を言っているのかわからず、思わず「プツ」と吹き出したくなります。まだまだ完璧なチャットサイトとは言えませんが、機会があれば開発を進めていきたいと思えます。

このインターンシップで一番印象に残ったのは開発までの道のりです。特にみなとみらい駅では、知らない街で知らない人に声をかけ、新規ソフトウェア開発のためのインタビューを行うという新鮮なものでした。このインターンシップで出会えた人全員に感謝の言葉を贈りたいと思えます。本当にありがとうございました！

## 学生の将来と進路

# インターンシップ体験記(専攻科)

## インターンシップ研修を通して

1ES 久島 惇

私は、8月24日から9月18日まで4週間にわたり、塩野フィネス株式会社、福井事業所でインターンシップ研修を行いました。

塩野フィネス株式会社は、坂井市のテクノポートにあり、医薬品原薬と呼ばれる薬の中の有効成分となるものを製造している企業です。

今回のインターンシップでは「医薬品原薬ができるまで」というテーマをいただき、そのテーマに基づき研修を行いました。初日は会社の概要説明や事業所見学などを行い、2日目から開発、研究部で研修を行いました。開発、研究部ではデータの取り方から製造指針書の作成の仕方、実際に実験を行ったりと幅広くいろいろなことを教えていただきました。

2週目からは、製造部で研修を行い、最初は開発部とのスケールギャップに驚かされました。製造部で研修を行う中、限られた時間で効率的にかつ丁寧に仕事をする事の難しさや大切さを改めて感じました。

4週目からは管理部で研修を行いました。管理部は3つの課に分かれており、その中の品質管理課での研修では、開発や製造の段階で製造されたものを様々な分析機器を用いて分析されており、私も実際に分析や解析をさせていただきました。最終日は、信頼性保証部で研修を行い、製品出荷前の最終チェックなどをさせていただきました。

今回のインターンシップ研修を通して、実際に企業で働く上での責任感や一体感など学生生活では体験できない多くのことを体験することができ、この経験を今後の生活や自分の進路に役立てていきたいと思います。

## 海外インターンシップという挑戦

1PS 吉村 拓也

私はインターンシップとして、タイのPrince of Songkla University (PSU) で約一か月研修を行った。本校の三年生の時に、オーストラリアに二週間ホームステイで、海外に行った経験がある。その時は団体で行動し、空港で次はどこにいけばいいのかも分からず先生の指示に従って動いていた。しかし、今回は全て一人でやらなければならない。正直不安もあったが、分からないことがあったら周囲の人に聞き無事たどりつくことができた。ここで英語でのコミュニケーションの難しさと、自分から話しかける姿勢が大切であると痛感した。

現地ではWarit先生の指導のもと、スマートLEDというものを作製した。分からないことがあるとPSUの学生達が理解できるまで熱心に教えてくれて、さらに分からないことを英語で質問するとPSUの学生達も英語で返してくれ、英語でうまくコミュニケーションがとれて嬉しいのと同時に、このような表現方法もあるのかとタイでの生活全てが勉強の日々であった。

この海外インターンシップでの一か月間に本当に多くの事を学び、また一つ成長できたと思う。実際に現地に行く事で本やインターネットの情報だけでなく、肌で異国の文化・習慣を体験できてタイという国に対して親近感を感じる事ができた。このインターンシップを終えて自分の中で新しい視野や考え方が広がった。最後にこのような機会を与えて頂いた学校、PSUの方々に心からお礼を申し上げたい。



## ISTS2015に参加して

### 英語漬けの8日間

2PS 米村 建哉

私は8月4日から8日間、マレーシアのマラ工科大学で開かれたISTS2015に参加しました。ISTSとは、全国の高専・大学の学生と他国の学生が集い、英語での研究発表を行う場です。今回のISTS2015は、従来行われてきた英語での研究発表の他に、ワークショップが含まれていました。

このワークショップは、国際的なリーダーシップを涵養することを主な目的とした2日間のプログラムです。私はこのプログラムに参加して、実際に他国の学生たちとグループを組み、現地マレーシアのある地域に関する問題発見から問題解決に至るグループワークを行いました。現地の方に英語で質問して、問題点を教えてもらったり、グループ内で討論して解決案を模索したり、学生や先生の前でプレゼンをしたり、濃密な2日間を過ごしました。その中でも、一番心に残っているのは英語での討論中、なかなか自分の意見を英語にできなかったことです。他国の学生は、当たり前のように英語を話すため、自分の

英語力の低さを痛感しました。「日本に帰ったらすぐに英語の勉強に力を入れよう」と強く思った瞬間でした。

私がISTSで得た経験は、ここには書ききれないほど多く、そのほとんどが日本では絶対に経験できなかったことばかりです。このような機会を与えてくださった諸先生方にはどんなに感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。また、今回のお世話になった全国各地の友達や他国の友達にも感謝したいと思います。Terima kasih!!



## 専攻科生による校外発表会(北陸技術交流テクノフェア)

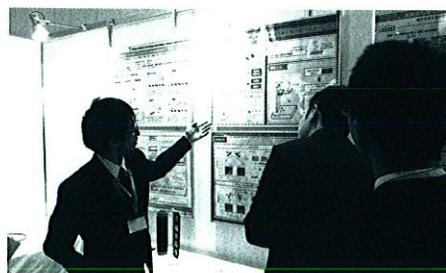
### ポスター発表を終えて

2PS 松田 純平

何か目的をもって行動する時、その目的の意義がわからなければ満足いく結果は得られないだろう。なぜならば、行動を起こす者が人である以上、どうしても感情がその行動に影響してしまうからである。自分たちが取り組んでいる研究では、世界情勢からニーズを見出し、自身の専攻する分野がどのように貢献できるかを考えて目的を立てている。しかし、学生の身ではニーズを知ることはできても、実際に目の当たりする機会は少なく、知識から研究の意義を感じることは難しい。

そのような中、先日開催された「北陸技術交流テクノフェア2015」で、福井高専専攻科の学生として研究内容をポスター形式で発表する機会を頂いた。この企画は、一般の企業や大学が持っているそれぞれの技術を、設けられたブースごとに展示品やポスターなどで紹介するというものである。来場者の多くは機械や電気、環境系などの工学を生業として仕事をされている方や、それらを専門として勉強している学生である。このため、発表の際に、同じ

分野を専門としている方からは共通の知識を持っているからこそ鋭い指摘を受け、異分野の方からは予期しない、それでいて的外さない質問を頂き、これからの研究に生かせる、それまで気が付かなかった多様な視点を知ることができた。しかしそれよりも、多くのブースが存在する中、自分のポスターの前で足を止め、発表を聞いてくださり、興味を示してくれた人がいたということが一番の収穫だったと思う。なぜならば、それだけ目的に共感してくれた人がいたということであり、知識として持っていた研究の意義を改めて実感できたからである。



## 中学生の皆さんへ

## キャンパスツアー2015及びキャンパスリサーチ2015の実施について

教務主事 上島 晃 智

本校夏のオープンキャンパス「キャンパスツアー2015」及び秋のオープンキャンパス「キャンパスリサーチ2015」が、それぞれ8月8日(土)と10月3日(土)に行われました。

福井高専では、オープンキャンパスを春・夏・秋と年3回実施しています。春のオープンキャンパスで学校の施設や部活動を見学して学校に興味を持ち、夏には各学科で具体的にどんなことを学ぶのか知り、秋に志望学科のデモ授業を実際に体験して、徐々に本校への進学意志を固めてもらおうという趣旨です。

オープンキャンパス第2弾となる「キャンパスツアー2015」は、当日最高気温が30度を超す真夏日にもかかわらず、中学生の生徒、保護者、教員併せて昨年と比較し若干増の707名の参加をいただきました。参加者は、本校の1年生に案内され、約3時間かけて校内を回り、各学科のデモ実験を体験しました。



キャンパスツアー2015 機械工学科の様子

在校生のホンネを聞く「交流コーナー」やまた、今回新たに教員を対象とした「入試制度の概要と変更について」の説明会も開催され、併せて「進路相談コーナー」も実施されました。「希望の学科だけ見学できればよかったと思っていたが、5学科すべてにそれぞれ特徴があり興味深く見学できてよかった。」「説明がわかりやすかった」等の意見が寄せられました。

また、オープンキャンパス第3弾となる「キャンパスリサーチ2015」は、さわやかな秋晴れのなか、中学3年生231名の参加があり、希望の2学科の授業を各50分体験しました。「進路相談コーナー」では、本校教員と直接対話できる機会であることから、進路や学校生活などに対する説明に熱心に耳を傾ける保護者の方々の姿が見られました。

このように、ほぼ1年を通してオープンキャンパスを開催し、多くの中学生や保護者の方々とお会いしてきました。来春一人でも多くの方と、このキャンパスで再会できることを楽しみにしています。



キャンパスリサーチ2015 電子情報工学科の様子

## 中学校だより

## 卒業生の皆さんへ

越前市立 武生第二中学校

◇実りの秋、今年も黒米を収穫できました。

皆さんも経験があるでしょう。5月初旬に手足を泥だらけにして行った田植えから4ヶ月、今年もたくさんの黒米が収穫できました。

黒米を使って「黒米うどん」やおはぎを作り、日ごろよりお世話になっている地域の方に感謝の気持ちをこめて振舞いました。学校にたくさんの方が来てくださり行列ができたほどです。

◇「赤ちゃん抱っこ体験」を行いました。

9月末と10月始めに赤ちゃん抱っこ体験を行いました。今年は80組以上のお母さんと赤ちゃんが来てくださいました。オレンジサポーターズ赤ちゃん抱っこ隊、市健康増進課、地域の方や保護者の皆様等、たくさんの方々が協力をしてくださいました。

3年生は直接赤ちゃんを抱っこしたり、いっしょに遊んだりしながら、赤ちゃんのやわらかさや温かさを実感していました。

また、お母さんからは、わが子のいとおしさや元

気に育ってほしいとの願いを聞き、命の大切さや家族の姿を改めて感じさせられました。貴重な体験をすることができました。

◇保育園、幼稚園の子どもたちと「かこさとふるさと絵本館」に行きました。

武生二中の近くの保育園児、幼稚園児といっしょに3年生が散歩をしながら、ふるさと絵本館に行きました。

絵本館では読み聞かせをしました。そして、コマなどを使って遊んだり、かこさとさんの絵本に登場する食べ物を授業中に紙粘土で作ったおもちゃでごっこ遊びをしたりしました。



## 救急救命講習会・実技講習会について

## AED講習に参加して

2M 小林 椿

夏休み前に、私は水泳部の代表でAED講習会に参加しました。学生が41人、教員が7人参加し、消防署の方に救急救命について、また熱中症の予防についての話をききました。

4人ずつの班に分かれ、1つの人形を使い胸骨圧迫の体験を1人ずつしました。私は救急救命の講習を受けるのは2回目だったのですが、けっこう大きな力があるし胸骨圧迫を行っている間はずっと同じテンポで行わないといけないので、とっても大変でした。30回ずつで次の人に交替したのですが、30回終わったら息があがって腕が痛かったです。その後、AEDの使い方の説明をききました。AEDには、電源をつけると音声による手順の説明をしてくれる機能があったので、私たちのような一般人でも使えるようになっていました。

消防署の方の説明によると、倒れている人を見つけたときに救急車が来るまでの時間に、正しい手順で胸骨圧迫などの救急救命行為が行われていた人は、病院に行ってから助かる確率が大幅に上がるそ

うです。それを聞いて、救急救命講習を受けてやり方を知っておくことは大事だと思いました。ただ、消防署の方の話を聞くだけでなく、実際に自分で体験して教わることができ、とてもいい機会になりました。

後半は熱中症の話を聞きました。全国で熱中症で亡くなるひとが多くいるらしいので、夏は予防にしっかり努めたいと思います。



## 学園通信

## オープンラボの実施について

地域連携テクノセンター 副センター長 亀山 建太郎

本年度のオープンラボは、昨年度の式と異なり、機器毎に実施日を設定して、長め濃いめの時間を過ごしていただくという方針で実施しました。私は、テクノセンター 1Fに設置した3Dプリンタを代表とする機器の担当で、本テーマには3社8名の方にご希望いただきました。また、同類の機器を管理されている西先生にも、同じ方からご希望をいただいていたので、9月30日（水）に、合同でオープンラボを実施いたしました。

前述しましたように、ラボには複数の機器があるのですが、やはり皆様は3Dプリンタにご興味があるようで、主にその特徴と使い方の説明に時間を費やしました。本学の所有するプリンタは、補材が水溶性で、微細構造を崩さず造形できるという特徴が

あるのですが、このタイプは珍しいという事で、大変興味を持っていただきました。

材料が高価で、ひいひい言っている今日この頃ですが、3Dプリンタなど店で売っている今日び、外の方に興味を持っていただけるのは特徴あつてのことなので、この点をアピールして多くの方に使っていただき、福井高専のプレゼンス向上に貢献できればと感じだ次第です。

最後に、「この方は、仕事関係なく、単に好きだから来たに違いない（確信）」という方もいらっしゃったことをご報告いたします。



## 女子中学生と保護者のための体験学習&amp;懇談会の実施について

企画室員 佐藤 匡

去る9月19日（土）、「女子中学生と保護者のための体験学習&懇談会」を開催しました。平成21年に始まった本企画は今年で7回目を迎え、女子中学生の理工系分野への進路選択支援を目的としています。当日は中学1～3年の女子生徒56名、その保護者50名、総数106名の参加となりましたが、これは本企画が実施されるようになってから最大数であり、県内はもちろん県外の中学校にも本校の取り組みが広く浸透した感があります。

大講義室でオープニング・セレモニーを行った後、参加者には5学科の講座から事前を選択してもらった3講座を、本校女子学生指導の下、各学科会場で体験してもらいました。受講後に学科別懇談会を行いました。本企画終了後に行ったアンケートによると、女子生徒からは「少人数だったので質問しやすかった」「直接話が聞けて分かりやすかった」保

護者からは「質問に対してとても丁寧にありのままの答えを聞けた」などの回答があり、全体的に好評でした。

講座での体験学習後は、参加者に再び大講義室へお集まり頂き、一般科目に関する説明に続き全体懇談会を行いました。また、昨年度まで行っていたOGによる基調講演の代わりに、OGインタビューDVDを参加中学生全員に配布しました。このDVDは放送・メディア研究会諸君の協力で作成されたものです。更に、新たに作成した“高専女子百科 Jr. 福井高専版”も参加者全員に配布されました。企画終了後は、寮務主事団のご協力で、希望者対象に女子寮見学が開催されました。

アンケートでは、参加女子中学生全員から本体験学習に「とても満足」「満足」の回答を得ることができ、保護者からは自由記述欄に次のコメントを頂

## 学園通信

きました。「高専の存在は知っていましたがオープンキャンパスでこれほど素晴らしい学校があったのかとおどろきました。市内の高校は良い大学へ進学する事だけアピールする中、仕事につなげる高専の



方針はとても共感しました。」

本企画の開催にあたり、本校女子学生を始め教職員の皆様のご支援とご協力を頂きました。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。



## 平成27年度 防災訓練の実施について

本校では、10月1日（木）に鯖江・丹生消防署協力のもと全校学生・教職員が参加し、緊急地震速報の後、地震の発生と地震に伴う火災が発生したとの想定で防災訓練を実施した。今年は新たに負傷者（足の骨折）の搬送訓練も実施した。

避難場所（体育館）での点呼確認の後、校長より「災害はいつ起こるか分からない、危険を回避するにはどうすれば良いかを日頃から考えておく事が大切である」との訓辞があり、消防署からは、「常日頃から、地震や火災が発生した場合には、自分の命は自分で

## 総務課

守るという気持ちを持ち、迅速で落ち着いた行動を心がけるように。また、災害を軽減するためには、「**自助、共助、公助**」が重要である。」との講評があった。

避難訓練の後、1年生全員が煙で一杯になった教室の中を通ることで煙の怖さを体験し、防災に対する意識の高揚を図った。



講評をする鯖江・丹生消防署員



けむり体験をする学生

## 学園通信

## 平成27年度 学寮防災訓練の実施について

寮務主事 中谷実伸

8月4日、学寮の防災訓練が実施されました。

事前に行われた消防署との打ち合わせの中で、今年度からは出火想定場所がどこかということをもっと通達しない、ということになりました。これまでは防災訓練以前に出火想定場所が決まっていたため、あらかじめ火元の発見者や初期消火担当者を割り振っておいたり、避難経路を確定したりすることができました。しかし、今回はあらゆる可能性を想定して準備をしなくてははいけませんでした。そこで、全11区ごとに出火場所とされた場合の対応を決めておき、避難経路についても複数用意していました。

ところが当日、出火場所とされたのは、全く予想していなかった中央棟で、発見者となったのは寮生ではなく、東寮寮監であった私自身でした。まったくの想定外であったために慌ててしまい、結果として、出火場所を特定するのに時間がかかり、また初期消火活動も満足にできませんでした。

寮生の避難は非常にスムーズに行われました。その後、水消火器を使った消火訓練と、消火栓からの放水訓練を行い、無事に学寮防災訓練を終えることができました。

今回の訓練でいくつかの問題点が浮き彫りになり、防災マニュアルや学寮自衛防災隊の構成を見直すきっかけとなりました。今後の学寮の防災に活かされることになったと考えています。



## ✧ 本校に着任して ✧



### 「縁」のある 福井に来ました

一般科目教室（人文社会科学系）

清島 絵利子

本年10月1日に一般科目教室（国語）の教員として着任いたしました清島絵利子と申します。着任前は京都市に在住し、大阪府池田市にある高等学校に勤務していました。しかし、私は教員になる前北陸地方の某企業に勤務し、営業や経理業務、社員教育を担当していました。その経験が、みなさんのお役に立ちましたら幸いです。

また、福井県という土地は私の生まれ故郷でもあります。10歳まで敦賀市に在住していました。懐かしい思い出がいっぱいです。10歳以降は富山県で過ごし、少し苦い経験をしました。それは「こと

ば遣い」のことでした。今、私が「言語行動」の研究をしているのは、この経験があったからだとも言えます。

話しことばは目には見えません。見えない分、相手の心に傷となって残ることもあります。一度発したことは消したくても、消えないのです。本校に着任し、多いクラスは5回講義をしました。担当している学生のみなさんは一様に「他人を不快な気持ちにさせないことば遣いをしたい」と言います。素直で優しく、真面目な性格で、他人への心遣いができる人たちだから、そのような考えに至るのだと思います。

本校は理系の学校ですが、1人でも多く「ことば（方言等）」に興味を持ってもらえるよう工夫して講義に臨みます。今後ともよろしく願いいたします。

**青武台だより206号(7/31発行)の記事の一部を  
以下のとおり訂正してお詫びします。**

P15

平成27年度福井県高等学校春季総合体育大会結果

◎水泳200m個人メドレー 荻輪 奈穂 (F3) 6位 (北信越大会出場)



**4位 (北信越大会出場)**

P16

平成26年度北陸地区高等専門学校体育大会結果



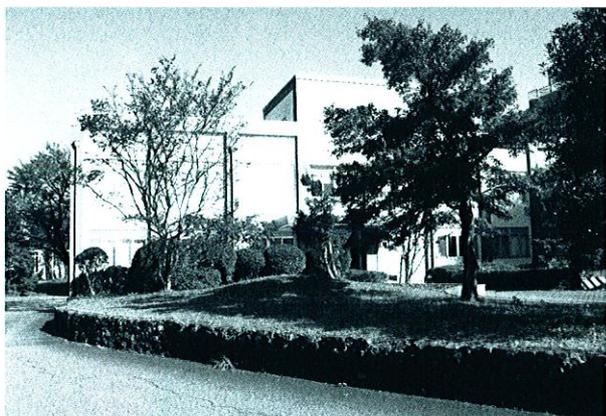
**27年度北陸地区高等専門学校体育大会結果**

P18

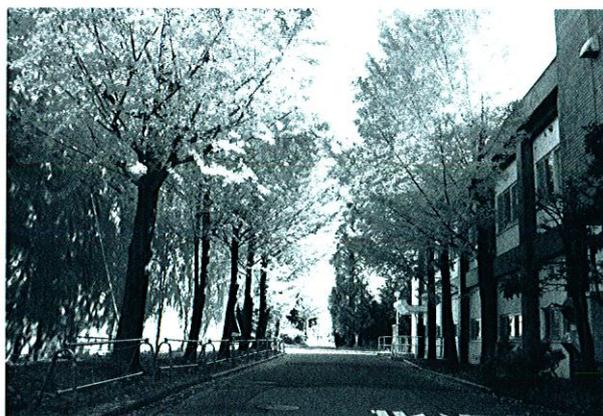
全国高専デザインコンペティション2015 in 熊本 始動!!



**和歌山**



校内風景1



校内風景2



クリーン大作戦1



クリーン大作戦2

# 高専祭風景



オープニング



サブステージ企画



スケジュール



ビンゴ



学生会合同企画



防災交流企画